

September 21, 2022

【前日の為替概況】米 10 年債利回り 3.60%でドル高 対円 143.92 円、対ユーロ 0.9955 ドル

20 日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は 143.75 円と前営業日 NY 終値 (143.21 円) と比べて 54 銭程度のドル高水準だった。20-21 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) で大幅利上げが見込まれる中、米 10 年債利回りが一時 3.6004%前後と 2011 年 4 月以来の高水準を記録すると全般ドル買いが先行。22 時 30 分過ぎに一時 143.92 円と日通し高値を付けた。

米 10 年債利回りが 3.53%台まで上昇幅を縮めるとドル円にも売りが出て一時 143.53 円付近まで伸び悩む場面もあったが、下押しは限定的だった。

なお、FOMC では 3 会合連続となる 0.75%の大幅利上げが見込まれるほか、同時に公表される政策金利見直し (ドット・チャート) や FOMC 後のパウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長の記者会見では「タカ派寄りの方針が示される可能性が高い」との見方が多い。

ユーロドルは 5 営業日ぶりに反落。終値は 0.9971 ドルと前営業日 NY 終値 (1.0024 ドル) と比べて 0.0053 ドル程度のユーロ安水準だった。明日 21 日の FOMC の結果がタカ派寄りの内容になるとの観測が高まる中、米長期金利が大幅に上昇するとユーロ売り・ドル買いが先行し、0.9955 ドルと日通し安値を付けた。

前週末の安値 0.9945 ドルがサポートとして働く買い戻しが優勢となり、0.9999 ドル付近まで下げ渋る場面もあったが、戻りは鈍く 2 時 30 分過ぎには 0.9960 ドル付近まで押し戻された。

ユーロ円は反落。終値は 143.34 円と前営業日 NY 終値 (143.54 円) と比べて 20 銭程度のユーロ安水準。ユーロドルの下落につれた売りが出たほか、欧米株価の下落に伴う円買い・ユーロ売りが入り、22 時前に一時 143.02 円と本日安値を付けた。その後の戻りも 143.70 円付近にとどまった。

米ドルカナダドルはしっかり。米金利上昇に伴う米ドル買いが入ったほか、原油先物価格の下落を受けて産油国通貨とされるカナダドルに売りが出た。市場では「本日発表の 8 月カナダ消費者物価指数 (CPI) が予想を下回ったことで、インフレのピークアウト観測が台頭している」との指摘もあった。3 時 30 分過ぎには一時 1.3375 カナダドルと 20 年 10 月以来の高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】明朝の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 声明への思惑で底堅い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、明朝 3 時に発表される FOMC 声明への思惑から底堅い展開が予想される。

FOMC では、インフレ抑制への強硬姿勢を保持して 0.75%の第 5 次利上げを行い、次回 11 月 2 日にも第 6 次利上げを行う意向が示され、資産保有圧縮 (QT) は今月から増額された月 950 億ドルの規模で続ける政策決定が見込まれている。今回の「ドットチャート (FF 金利の予想分布図)」では 2025 年までの見通しが示されることで、注目ポイントは、高金利政策がいつまで維持されるかとなる。

シカゴ・マーカンタイル取引所 (CME) グループが FF 金利先物の動向に基づき算出する「フェドワオッチ」によると、0.75%の利上げ確率は 82%、1.00%の利上げ確率は 18%となっている。また、FF 金利先物では、現時点で 2.50%である FF 金利誘導目標の上限が、来年前半に 4.25-50%程度まで引き上げられること、その後は利下げに転じることを織り込んでいる。すなわち、米国 2 年債と 10 年債の長短金利逆転 (逆イールド) が示唆しているように、2 年債の 4.0%前後が示唆するターミナルレート (利上げの最終到達点) は 4.00-25%程度、10 年債の 3.6%前後は、その後の利下げへの転換を見込んでいる。しかし、パウエル FRB 議長は、早期の利下げ期待を牽制してきており、「政策金利については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している」という、フォワードガイダンスが変更される可能性にも注目しておきたい。米連邦準備理事会 (FRB) による高金利政策の長期化、そしてリセッション (景気後退) に陥る可能性が高まることは、2024 年 11 月の米国大統領選挙での政権与党である民主党候補の敗北の可能性を高めることになる。

ドル円は、FOMC で 0.75%の利上げが行われ、ドットチャートで 2023 年から 2025 年まで高金利が維持されたならば、145 円のノックアウトトリガーへの 3 度目の買い仕掛けの可能性が高まり、2 度成功してきた防戦売りとは本邦通貨当局による円安牽制措置との攻防が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、ダブル・トップ (144.99 円・144.96 円) を形成しつつあるが、3 度目の買い仕掛けでトリプル・トップになるのか、それとも上抜けて 1998 年 8 月の高値を目指す上昇トレンド再開となるのか、見極めることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○日銀金融政策決定会合（1日目）

<海外>

○16:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演

○17:00 ◎ 8月南アフリカCPI（予想：前月比0.1%／前年比7.5%）

○20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数

○23:00 ◎ 8月米中古住宅販売件数（予想：前月比▲2.3%／年率換算470万件）

○23:30 ◇ EIA週間在庫統計

○22日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）、終了後政策金利発表（予想：3.00－3.25%に引き上げ）

○22日 03:00 ◎ FOMC、経済・金利見通し発表

○22日 03:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、定例記者会見

○22日 06:30 ☆ ブラジル中銀、政策金利発表（予想：13.75%で据え置き）

○バイデン米大統領、国連総会で一般討論演説

○英中銀金融政策委員会（MPC）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

20日 10:36 豪準備銀行(RBA)議事要旨

「将来の利上げ幅や時期は雇用やCPIのデータ次第」
「労働市場は引き続きタイトで、経済が総需要の水準を満たすのは困難であることを示唆」
「政策金利の水準が上がるにつれて、利上げ速度を緩やかにする根拠が強まりつつある」
「インフレ率は今年後半にピークを迎え、その後2~3%の目標範囲に落ち込むと予想」
「インフレを軌道に戻す道筋は成長と雇用へのリスクを考慮しなければならない」
「0.50%と0.25%の利上げを巡り議論した」
「金利は正常な設定に近づきつつある」

20日 10:49 鈴木財務相

「金融政策の具体的手法は日銀に委ねられるべきもの」
「日銀には適切に金融政策運営が行われることを期待」

20日 17:34 ミュラー・エストニア中銀総裁

「政策金利は歴史的な状況で言えば依然として低水準にある」
「金利は経済を減速させる水準には程遠い」

21日 02:31 エルドアン・トルコ大統領

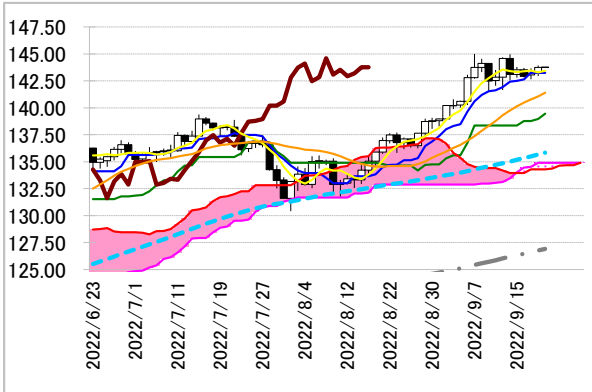
「米国がトルコにF-16戦闘機を売却する可能性について、会談した米上院議員から肯定的なフィードバックを受けた」

21日 02:37 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「インフレの長期化を許さない」
「追加の利上げを予想」
「ユーロ圏は米国のように需要主導の過熱はない」
「賃金・物価スパイラルのリスクは今のところ抑制されたまま」
「今後複数回の理事会での利上げを予想」
「ECBはインフレ率を2%に戻すと決意」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

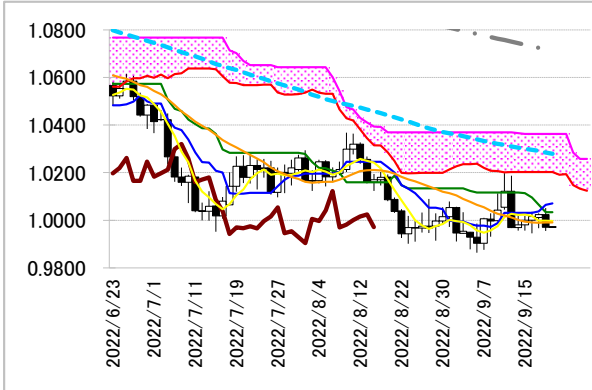


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。2手連続陽線で上昇して、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	145.40(1998/8/21 高値)
レジスタンス 1	144.99(9/7 高値)
前日終値	143.75
サポート 1	143.24(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	142.65(9/19 安値)

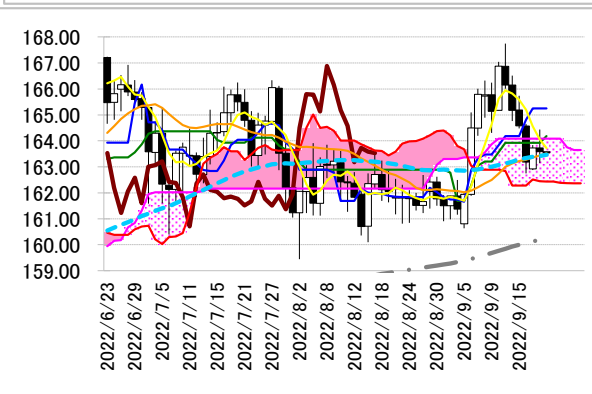


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。抱き線で反落して、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0072(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	0.9971
サポート 1	0.9864(9/6 安値)

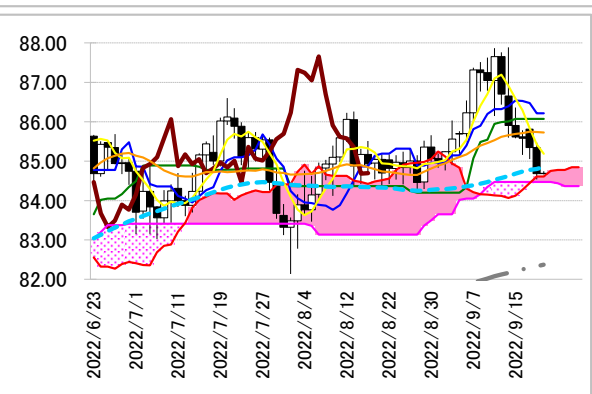


<ポンド円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けているものの、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、孕み線で反落して、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	165.25(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	163.59
サポート 1	162.43(日足一目均衡表・雲の下限)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を下回っているものの、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。しかし、6手連続陰線で下落し転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限 84.61 円を念頭に置き、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。雲の下限 84.47 円を下抜けた場合は、追撃売り。

レジスタンス 1	86.22(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	84.68
サポート 1	83.46(8/5 安値)

